

**函館市地域支えあい推進協議体 平成29年度 第2回会議
会議概要**

■ **日 時**

平成29年11月10日（金） 18時30分～20時00分

■ **場 所**

函館市役所8階 第1会議室

■ **議 事**

報告

- (1) 生活支援体制整備事業実務担当者研修会兼情報交換会の開催について
- (2) 平成29年度上半期の第2層協議体の状況について
- (3) 地域型介護予防体操教室モデル事業の実施について
- (4) 函館朝市協同組合連合会における取組みについて

議事

- (1) 住民主体の通いの場の拡充に向けた今後の施策について
- (2) 介護支援ボランティアポイント事業の拡充のイメージについて

■ **配付資料**

- ・資料1 生活支援体制整備事業実務担当者研修会兼情報交換会の開催について
- ・資料2 平成29年度上半期の第2層協議体の状況について
- ・資料3 地域型介護予防体操教室モデル事業の実施について
- ・資料4 函館朝市協働組合連合会における取組みについて
- ・資料5 住民主体の通いの場の拡充に向けた今後の施策について
- ・資料6 介護支援ボランティアポイント事業の拡充のイメージについて
- ・資料7 次回スケジュール確認票

■ **出席委員（10名）**

池田委員，佐々木委員，所委員，林（珠）委員，川口委員，阿知波委員，永澤委員，能川委員，林（優）委員，丸藤委員

■ **欠席委員（1名）**

酒井委員

■ **傍 聴 なし**

■ **報道機関 1名**

■ **市職員（事務局）**

高齢福祉課 佐藤課長，岩島主査，中村主査，笹原主査，辻主査，相澤主査，古口主任技師，田畑主任主事

■ 会議要旨

池田会長

それでは、報告（１）「生活支援体制整備事業実務担当者研修会兼情報交換会の開催について」、市から説明願いたい。

相澤主査

（資料１「生活支援体制整備事業実務担当者研修会兼情報交換会の開催について」に基づき説明）

※説明要旨

- ・ 渡島・檜山地域から実務担当者（行政職・生活支援コーディネーター）を募った。当日は12自治体から約60名が参加する予定である。
- ・ 講師に元厚生労働省の服部真治氏に来ていただき、「地域づくりに求められる行政とコーディネーターの役割」について講演いただく。
- ・ 講演後は、意見交換や情報交換を行うなど、コーディネーターや自治体間の交流を深めていただくための時間を1時間程度設けている。

池田会長

すごく良い取り組みであると思う。丸藤委員，服部氏は講演でどのようなことを話す予定か。

丸藤委員

多分この分野では話が分かりやすく、一番人気の講師であると思う。

今回の研修は、一般市民向けではなく、コーディネーターや自治体向けの研修であるため、自治体が住民主体の取り組みに対する補助金を出す際の要綱作成におけるポイントや、移動サービスに関する実践的な取り組み紹介など、日々の業務に取り入れることができるような、実践的な話をしていただく予定である。

池田会長

グループワークは実施するのか。

丸藤委員

今回はグループワークを行わない。せっかく服部氏に来ていただくので、参加者が業務を行う際に抱える課題や疑問点等を服部氏に投げかけていただき、是非色々な意見交換をしていただきたい。

また、自治体を越えた生活支援コーディネーター間の交流自体がまだあまり行われていないので、今回の研修会は全国的に見ても先進的な取り組みになると思う。市が主催で、近隣自治体の参加を呼びかける例は大変珍しい。付き合いのある他自治体のコーディネーターから、大変ありがたいとの声をいただいている。

池田会長

自分の自治体だけではなく、他の自治体にも声をかけ、皆で協力してやっていこうという姿勢は素晴らしいと思う。

相澤主査

自治体間でどのようなことをやっているかの情報共有、また、関係者間のネットワークを構築したいという思いがあり企画した。この業務は明確な答えが無く、非常に悩むことが普通であるため、気軽に相談しあえるような仲間づくりをすることで、精神的負担の軽減も図ることができればと考えた。

池田会長

是非成功させてほしい。委員から他に何かあるか。

(特に無し)

特に無いようなので、次に進みたい。報告(2)「平成29年度上半期の第2層協議体の状況について」市から説明願いたい。

相澤主査

(資料2「平成29年度上半期の第2層協議体の状況について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 上半期では8か所の包括において、13の会議を開催した。
- ・ 実際にサロンや通いの場の立ち上げに動き始めた地域もある(包括こん中央、包括ときとう)。
- ・ 包括ゆのかわの認知症高齢者模擬捜索については、授業の一環として地域の小学校(4年生)も参加しているが、子供を交えることにより、多世代交流にも繋がっている。また、校長先生から毎年続けていきたいとの声が出ている。
- ・ 少しずつではあるが、住民主体の地域づくりの意識が高まってきているように感じる。

池田会長

実際に参加されている方、林(珠)委員どうだったか。

林(珠)委員

包括よろこびが北浜町会館で開催した協議体に参加した。

どの地域でも共通の課題となっていると思うが、町会役員の高齢化、町会活動の縮小化が課題として挙げられた。町会が地域に向けて情報発信する力が弱体化してしまっているため、前向きな気持ちが萎えがちになってしまっている。

そのような課題を解決するため、町会、民生委員、老人クラブ、在宅福祉委員と話し合った。結論としては、町会という枠を超え、北浜町で何かできないかということになり、敬老会を町会主導ではあるが、町会の会員・非会員を問わず参加できるような形で開催した。

今回は、次のステップとして、北浜町にある社会資源を活用して何かできないかを検討するため、北浜町に所在する介護保険施設の担当者も交え意見交換する予定である。

池田会長

前向きな姿勢で良いのではないか。川口委員どうであったか。

川口委員

恵山で開催された協議体に参加したが、町会からの参加者が少なかった。榎法華からは私1人の参加であったが、どのように参加者の呼びかけを行っているかが気になった。もう少し町会関係者にも声をかけた方が良いと思う。

佐藤課長

実際呼びかけているのは包括となるが、町会への呼びかけは行っていると思う。

川口委員

地元である恵山の町会長も来ていなかったのので、適切に呼びかけを行って欲しい。

丸藤委員

呼びかけの面となるが、私が参加した戸井で昨年開催された協議体は20名程度の参加者であったが、今回は人をもっと多く集めるので、もう一度講演してほしいと依頼があった。

9月に戸井で「福祉の集い」というイベントがあり、そのなかで私も講演したが、そのイベントは歌謡ショーや出店等があったこともあり、私の講演も100名以上の方に聞いていただいた。このように何か元々あるイベントと、協議体の開催を結び付けるのも一つの手だと思う。

池田会長

人集めには工夫が必要となる。阿知波委員どうであったか。

阿知波委員

昨年引き続き、包括たかおかの協議体に参加したが、昨年はくらしのサポーターについて講演し、今年は、前回行ったアンケート結果に対する社協の取組み等について講演した。

さらに今月下旬に包括たかおかで開催する協議体では、既に地域で活動している永澤委員に万代町会での取組みを発表いただき、その後の丸藤委員によるグループワークを紹介し、参加者に地域活動の意識を深めていただく予定である。

また、資料には記載していないが、包括亀田が行っている町会での居場所づくりに関する取組みにも参加している。

池田会長

各地区で色々な取組みが行われているが、その情報共有があまりされていないので、取組みの情報共有が大事になると思う。

丸藤委員

本通町会を会場とした協議体では、町会から参加者の高齢化が課題となっているという悩みを聞いたので、たまたまその近くにある大谷短大で、私が授業を受け持っていることから、どうすれば若い人が町会活動に関心を持ち実際に参加するか、私の授業で検討する予定となっている。

この中で出てくるアイディア等は、どこでも当てはまると思うので、情報共有していきたいと思う。

池田会長

佐藤課長はどうであったか。

佐藤課長

私は包括ゆのかわの認知症高齢者模擬捜索に参加した。

ラサール高校の生徒が10人程度いたが、最後の感想で、このような取組みを継続的に実施すれば、日吉町も良い町になるのではないかとの発言があった。このような高校生からの思いがけない発言が印象に残った。

日吉町はラサール高校があるので、高校と連携して何かできれば良いと思う。町会からの参加者も、普段高校生と交流することが無いので喜んでいました。

丸藤委員

私が関係している施設であるGスクエアで、地域デザイン部を立ち上げ、町会活動やまちづくりの提言を高校生目線で考えようという取組みを行っている。このような取組みを巻き込んでいくのも良いのではないかと思う。

池田会長

丸藤委員のアイデアは良いと思う。

第1層生活支援コーディネーターの取組み状況はどうなっているか。

丸藤委員

第1層の取組みとしては、色々な町会から勉強会等のイベントで講師として呼ばれるので、そこで助け合いの重要性などに関する講演を行っている。

また、ワークショップも同時に行う場合は、さわやか福祉財団で作成した「助け合いゲーム」を実施して、助け合いの意識づくりを行っている。

池田会長

忙しいと思うが頑張ってもらいたい。他委員から何かあるか。

(特に無し)

特に無いようなので、次に進みたい。報告(3)「地域型介護予防体操教室モデル事業の実施について」市から説明願いたい。

相澤主査

(資料3「地域型介護予防体操教室モデル事業の実施について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 住民主体の通いの場の地域展開を目指すため、体操を必須とする運動やレクリエーション活動等を内容に盛り込んだ介護予防体操教室の実施を、介護保険事業者に委託した。
- ・ 10の日常生活圏域を3区域に分け募集したところ、平山医院とこうじゅ三号館の2事業所から提案があった。事業所は同区域に所在するが、プログラム内容や運営面での評価が高かったことから、両事業とも採択し委託したものである。

池田会長

佐々木委員は、事業所と住民が協力した通いの場についてどう思うか。

佐々木委員

デイサービスを活用することを想定していたようで、事前に佐藤課長から相談があった。役員を集め意見交換を行ったが、大体の事業所は月曜から土曜までデイサービスを運営しており、場所を準備できなければ、日曜日にやるしかないとの課題が出た。

また、その事業に人員を割けるだけ余裕がないのではないかとの意見も出た。

面白い取り組みではあるが、実施できる事業所があるか心配していた。今回2事業所が、決まったということで内心ほっとしている。

池田会長

やはり人材は不足しているのか。

佐々木委員

現状では不足している。

川口委員

1回15,000円で、15回以上行うということか。

佐藤課長

そのとおりである。年度途中の11月からの開始となるため、年度内に実施できるのは20週程度となる。そこから正月等を除いた15週以上を想定している。

住民主体の通いの場を広めるにあたって、住民がすぐやりますということにはなかなかならないと思う。それであれば、場所・人・ノウハウを介護事業所からお借りし、ボランティアの方々も交えながら少しずつ広めていき、その参加したボランティアの方々が、自分達だけでやってみたいという機運を高めたい。

まずは、このような委託型で通いの場をつくり、そこから補助等の形で住民主体の通いの場に徐々に移行したいが、当面は委託と補助を並行しながら実施していきたいと考えている。

池田会長

どんどんこのような形で通いの場が広がっていくのは良いことだと思う。

佐々木委員

サービス事業所にとっても、通いの場を使ってくれた人が、いざ身体状況が悪くなり、介護が必要になった場合、なじみの場所ということで、通いの場として利用していた事業所のサービスを使ってくれるかもしれないというメリットがある。

繰り返しになるが、うちの事業所には通いの場のノウハウ等はあるが、割ける人員がおらず実施できなかった。取り組みとしては、素晴らしいと思う。

池田会長

他委員から何かあるか。

(特に無し)

特に無いようなので、次に進みたい。報告(4)「函館朝市協同組合連合会における取り組みについて」市から説明願いたい。

相澤主査

(資料4「函館朝市協同組合連合会における取り組みについて」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 函館朝市協同組合連合会では、商環境の活性化・介護予防・地域交流の推進を合わせ持った「おでかけリハビリ」の取り組みを行っている。

- ・ 函館朝市ひろば2階の多目的スペースで介護予防の体操や認知症等の講話の後、実際に店内で買い物する流れとなっている。
- ・ 朝市以外の商業施設においても展開しており、さらなる拡大を目指している。
- ・ 当課では後方支援として、くらしのサポーターを派遣し、「おでかけリハビリ」参加者に対し、付き添いや話し相手等のサポートを行っている。

池田会長

「おでかけリハビリ」は朝市以外の市内商業施設で展開していく予定はあるか。

相澤主査

イオン湯川店では実施済みで、テオーデパートでも実施する予定である。

池田会長

是非普及してほしいので、後方支援してほしい。この取組みを知っていた方はいるか。

所委員

以前から聞いており、良い取組みだと思っていたが、まだ実際に見たことはないので、機会があれば一度見てみたい。

池田会長

林（珠）委員は見たことがあるか。

林（珠）委員

見たことはないが、新聞や業界紙を見て知っていた。

また、平山医院が通所リハビリの一環として、朝市で似たようなことをやっていると聞いていた。

所委員

平山医院では通所リハビリの機能訓練と位置付け、朝市以外でもフレスポ戸倉などの商業施設で買い物リハビリを行っている。

池田会長

朝市が単独でやっているのではなく、事業所等と何らかの繋がりがあるのか。

笹原主査

実は「おでかけリハビリ」についての研修会を朝市で開催し、市内の作業療法士や地域包括支援センター等の関係者に声をかけ参加いただいた。

その研修会を通じ、朝市と介護事業所、スーパー関係者等との繋がりができた。今は色々な方と繋がっており、タクシー会社とも連携し、送迎についても工夫しようというところまできている。

池田会長

了解した。他委員から何かあるか。

（特に無し）

特に無いようなので、次に進みたい。議事（1）「住民主体の通いの場の拡充に向け

た今後の施策について」市から説明願いたい。

相澤主査

(資料5「住民主体の通いの場の拡充に向けた今後の施策について」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 国の施策の方向性として、住民主体の通いの場の展開を推進しており、本市においても対応する施策をある程度実施しているが、より住民主体の活動を広げる方向にシフトしていきたいと考えている。
- ・ 本市の場合、住民が集まることができる公の施設が少ないことや、活動の推進役の不足等の問題があることから、単独で活動可能な住民グループを今より多く創出していくのは難しい。
- ・ このため、住民グループがある程度の段階を踏んで自主化に到達することができるよう、新たな通いの場の運営支援に向けた検討を進めたいと考えていることから、本日の議事として提出させていただいた。

池田会長

林(珠)委員、健康づくり教室に携わっている包括として、市の考えている支援策についてどう思うか。

林(珠)委員

人材が一番問題となる。地域で活躍していく元気な方をどれだけ発掘できるかが重要となることから、人材を発掘するためのツールを作るのが大切になる。この部分を1層・2層のコーディネーターが連携し作っていくのが望ましいと思う。

また、健康づくり教室に関わらず、活動している小さなグループがあつたりするので、そのような小さなグループを吸い上げ、大きくしていくのも課題になると思う。

池田会長

コーディネーターを育てる必要がある。阿知波委員、何かあるか。

阿知波委員

昨年度から人材の掘り起こしを行っているが、フォローアップがまだ手薄な状況である。

池田会長

これからリーダーをどうやって育てていくかが課題となる。

丸藤委員

もう少しゆったりとした通いの場も必要になると思う。子ども食堂が最近話題となっているが、なかなか実践される方が少ない。

高齢者の活動の場と子ども食堂が連携できると、多世代交流にも繋がり良い取組みになるのではないかと思う。

池田会長

多世代交流は子供たちの社会性を育むのにも良いと思う。

佐々木委員

先ほどの介護予防体操教室について役員と意見交換した際、緊急時の際の対応について意見があった。

住民主体とした場合、緊急時の対応方法や、誰が責任を負うかが課題となる。

リーダーの育成の際は、このようなことについても学べるようにした方が良い。

健康づくり教室のような形だと、緊急時の対応が必要になる可能性もあるので、もう少し緩い形の憩いの場などから始めるのも良いと思う。

池田会長

丸藤委員、佐々木委員からはもう少しふわっとした形でやってはどうかとの意見が出た。この件について他に何かあるか。

(特に無し)

では、時間はかかると思うが、今の意見を参考にしながら、話を進めてほしい。

相澤主査

まずはざっくりとした考えを提案しているので、今後、皆様の意見を参考にしながら詰めていきたい。

池田会長

次に議事(2)「介護支援ボランティアポイント事業の拡充のイメージについて」市から説明願いたい。

相澤主査

(資料6「住介護支援ボランティアポイント事業の拡充のイメージについて」に基づき説明)

※説明要旨

- ・ 前回いただいた各委員の意見を参考に、イメージを考えてみた。今回はこのイメージについて、意見をいただきたい。
- ・ 実際このようなイメージで行う場合は包括等とも協議し、役割分担することになる。
- ・ ポイントの上限に関し、平成28年度のボランティアポイントの取得状況は8割の方が50ポイント以内の取得となっている。80ポイント以上取得している方は全体の1割程度となっていることから、80～100ポイントが妥当であると思う。

池田会長

このボランティアポイント事業の拡充イメージについて何かあるか。

阿知波委員

ボランティアポイントの上限を超えて活動している方は、施設で利用者と交流することを目的に活動されていると思う。

佐々木委員

個人的な主観となってしまいが、うちの施設に月に2回、折り紙を1時間教えに来てくれるボランティアの方がおり、一生懸命で利用者にも喜ばれている。この成果として

1ポイント受取っているが少ないと感じる。事業所側としては2ポイントでも良いのではないかと感じる。

能川委員

ボランティアを行った際のポイントについては、付随的なものと感じる方が多いようだが、それでもやはり1時間2ポイントまでは増やしていただければと思う。

林（優）委員

民生委員と話した際に、ボランティアポイントをお小遣い程度に感じている方もいたので、ポイントに対する意識は活動者で異なると思う。

池田会長

ボランティアの内容によりポイント数が違う制度とすると、判断が難しいと思う。1時間につき1ポイントが妥当だと思う。

相澤主査

他自治体では、生活支援に関するボランティアを行った場合のみ1時間2ポイントとしているケースはあるが、基本的には1時間1ポイントである。

池田会長

この件について他に何かあるか。

佐藤課長

前回お示しした際は、30年度から変えていければと思っていた。

しかしながら、実際拡充を検討すると、福祉サービスの雪かきと、ボランティアポイントの雪かきとのすみ分け、話し相手のボランティアを行う際、どの程度までの話し相手をボランティアポイントの対象にするかなど、意外と整理すべき事項が多くあることが分かった。

池田会長

この件について他に何かあるか。

（特に無し）

ボランティアポイント事業の拡充については、今日出た意見も参考にしながら、検討して行ってほしい。

全体を通して何かあるか。

（特に無し）

では、これで議事を終了したい。進行を市にお返しする。

田畑主事

これをもって、函館市地域支えあい推進協議体の今年度第2回会議を終了する。